

羅蕙錫

羅蕙錫（ナ・ヘソク、1896～1948）は韓国最初の女性洋画家であり、女性解放論者、作家、詩人などとしても活躍した。

裕福な家庭に生まれた羅蕙錫は1913年、日本に留学し、私立女子美術学校（現女子美術大学）で学んだ。留学時に接した『青鞥』などにより、女性解放思想を知った。その後、旺盛な創作活動により、朝鮮の「新女性」として注目された。1920年代には時代の寵児となったが、奔放な言動が当時の朝鮮社会で批判を招き、晩年は不遇な生活を送ることになった。

柳原吉兵衛が初めて奈良女子高等師範学校への留学を斡旋した4名のなかに、金淑培という留学生がいる。彼女は羅蕙錫の姪にあたる。羅蕙錫は金淑培を通して柳原と交流することになった。桃山学院史料室には、羅蕙錫の柳原吉兵衛宛書簡が6通残されている。また60通に及ぶ金淑培の書簡のなかにも、羅蕙錫について言及されているものが5通ある。

近年、韓国では羅蕙錫の業績を見直す動きが活発で、多数の関連書籍が出版されている。羅蕙錫の郷里である韓国の水原市では、羅蕙錫を讃えるためにナ・ヘソク通りがつけられ、通りの中心には羅蕙錫の銅像が建てられている。



羅蕙錫と柳原吉兵衛夫妻
後列左が羅蕙錫、右が表景祚の兄・表文七。前列が柳原吉兵衛夫妻（1927年、朝鮮の東萊）。



羅蕙錫の柳原吉兵衛宛の葉書



羅蕙錫が描いた絵「天后宮」
（絵葉書）

第5回朝鮮美術展覧会（1926年）で特選に選ばれた。原物は柳原吉兵衛が所蔵していた。柳原吉兵衛はこの絵を使って絵葉書を作成し、知人に送付していたようである。

『奈良女子高等師範学校とアジアの留学生』2016年

奈良女子大学の前身である奈良女子高等師範学校で学んだアジアの留学生について調査されたもの。留学生制度の変遷や留学生の生活の実態などが詳細に記されている。奈良女高師に留学生を斡旋した柳原吉兵衛についても触れられており、時とともに奈良女高師と柳原の関係性が変化していく様子などは非常に面白い。柳原吉兵衛に関心のある者にとっても必読の書である。



朴宣美『朝鮮女性の知の回遊』2005年

朝鮮の女子留学生が経験した日本への留学の全体像を、社会文化史・文化交流史・ジェンダー史の視点から明らかにしようとするものである。柳原吉兵衛についても、第五章「帝国の伝道師柳原吉兵衛と女子留学生の「植民地的遭遇」」のなかで詳細に分析されている。

関連書籍



『青霞翁 柳原吉兵衛傳』

梅田安之氏によって記された柳原吉兵衛の伝記。原稿は1949年に作成された。左の三分冊の資料は、原稿をもとに1967年頃に作成されたもの。右の資料は、柳原吉兵衛の曾孫である柳原高志氏が原稿から翻刻したもので、2016年に発行された。

■第1回展示 学院史料展示コーナー

（桃山学院大学 聖ペテロ館2階）

期 間 2017年4月4日（火）～5月19日（金）

時 間 9:00～17:00（入館16:30まで）

*土日は閉室 *入場無料

■第2回展示 泉大津市役所ロビー

期 間 2017年5月25日（木）～6月7日（水）

時 間 8:45～17:15

*土日は休み *入場無料

■編集・発行 泉大津市教育委員会

〒595-8686 大阪府泉大津市東雲町9-12 TEL 0725-33-1131（代表）

桃山学院史料室

〒594-1198 大阪府和泉市まなび野1-1 TEL 0725-54-3131（代表）

発 行 日 2017年4月4日

泉大津市・桃山学院大学連携事業

2017(平成29)年度第1回企画展

柳原吉兵衛と アジアの留学生

柳原吉兵衛は1858（安政5）年に堺で生まれました。現在も操業を続ける大和川染工所を創設（1896年）し、実業家として成功を収めました。柳原吉兵衛には実業家とは別に、社会事業家としての顔もありました。クリスチャンであった柳原吉兵衛はキリスト教精神に基づき、孤児院を設立したり、方面委員（現民生委員）として困窮者の相談役を務めたりするなど、社会事業家としての足跡を多方面に残しています。

柳原吉兵衛が行なった社会事業の一つに李王家御慶事記念会の活動があります。李王家御慶事記念会は1920（大正9）年に李王世子垠と梨本宮方子の結婚を記念して設立され、柳原吉兵衛が会長に就任しました。李王家御慶事記念会の主な事業は、朝鮮の高等女学校や女子高等普通学校及びそれ以上の学校の優秀な卒業生を表彰すること、そして彼女らの日本への留学を斡旋・支援することでした。後に、柳原吉兵衛は朝鮮人留学生だけではなく、中国人留学生にもその支援の手を広げていきます。

本展では、柳原吉兵衛とアジアの留学生との交流の記録を通して、戦前の日本とアジアを巡る留学生史、教育史、異文化交流史の一端を紹介するとともに、柳原吉兵衛という人物の隠れた業績に光を当ててみたいと思います。

主催 泉大津市教育委員会・桃山学院大学

協力 奈良女子大学アジア・ジェンダー文化科学研究センター

柳原吉兵衛と社会事業

1891年にキリスト教の洗礼を受けた柳原吉兵衛は、時をおかずにキリスト教の信仰を実践に移した。柳原が洗礼を受けた同年、濃尾地震が発生した。これによりたくさんの孤児が生まれたことを知った柳原は、8名の孤児を引き取り、翌年には堺実業孤児院を開設した。1896年の大和川染工所の創業により、実業家として自らの足場を固めることに成功した柳原は、さらに様々な社会事業に携わっていった。例えば、現在の民生委員にあたる方面委員に就任したり、日露戦争で負傷した軍人のために設立された保養院の理事に就任したりしている。また、柳原が中心になって組織した李王家御慶事記念会の事業として、朝鮮の優等生の日本留学を支援する活動を1923年より始めた。1924年には朝鮮総督府の斎藤實の要請に従い、大阪在住の朝鮮人のために内鮮協和会を組織している。



40歳頃の柳原吉兵衛

前列の子供を抱いた男性の右隣が柳原吉兵衛。後列の右端は三男の貞次郎。



大和川染工所と柳原吉兵衛（絵葉書）

大和川染工所は1896年、堺の大和川の河畔で柳原吉兵衛によって設立された。現在も同地で操業を続けている。



『向上』第1号

1907年、大和川染工所内に克己団が設立された。克己団はキリスト教主義の労使協同の団体であり、生活改善の取り組みを実施するとともに、地域の人々の救済のためにも活動した。『向上』は克己団の機関誌として発行された。第1号は1918年7月23日に発刊。『櫻権の華』が発行されるまでは、李王家御慶事記念会の活動についても、『向上』誌上で報じられた。



「方面委員が出来ました」

方面委員（現在の民生委員）制度は1918年に創設され、地区を分けて委員を選出した。柳原吉兵衛は堺市第一区方面委員となった。チラシの「第壹方面」の委員名簿の先頭に、柳原吉兵衛の名が記されている。



『櫻権の華』第1号

李王家御慶事記念会の機関誌。日本の名花である櫻と、朝鮮の名花である権をあわせて命名された。第1号は1933年12月25日に発刊。

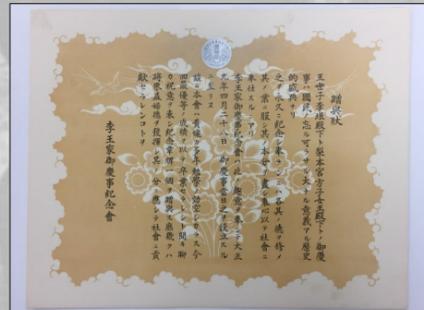
李王家御慶事記念会

1920年4月28日、李王根殿下と梨本宮方子の結婚を記念して李王家御慶事記念会（設立当初は李王世子殿下御慶事記念会）が設立された。李王家御慶事記念会の当初の目的は「御成婚を永久に記念すること」であったが、のちに朝鮮の高等女学校や女子高等普通学校などの最優秀卒業生に対する表彰や日本への留学を斡旋する事業へと発展した。表彰を受けた者は奈良女子高等師範学校などに留学した。この活動は1942年まで続き、のべ1,048名が表彰を受けた。会長を務めた柳原吉兵衛は留学生を親身に世話し、私財を投じて支援を続けた。



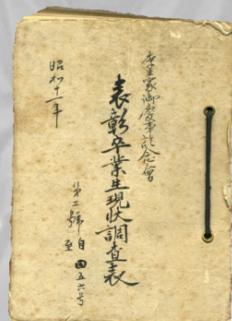
李王家御慶事記念会による表彰式

李王家御慶事記念会による最優秀卒業生に対する最初の表彰式の様子。表彰された者には、賞牌（メダル）が贈与された（1922年、淑明女子高等普通学校）。



「贈與状」

李王家御慶事記念会が賞牌（メダル）を最優秀卒業生に贈与するにあたって贈られたもので、「…庶幾クハ将来益婦徳ヲ發揮シ其ノ分ニ應シテ社会ニ貢献セラレコトヲ」と記されている。



「表彰卒業生現状調査表 昭和11年」

カード形式になっており、表彰卒業生1人につき、カード1枚で情報が記録されている。項目は「氏名」「生年月日」「現住所」「学校名」「卒業年月」「職業」「婚姻」「配偶者名」「子女」「摘要」となっている。

奈良女子高等師範学校と留学生

奈良女子高等師範学校（現奈良女子大学。以下、奈良女高師）が最初に留学生を受け入れたのは開学の翌年、1911年4月のことである。最初の留学生は4名の清国の留学生であった。翌年にも清国の留学生を1名受け入れたが、辛亥革命（1911～1912）がおこると彼女たちは帰国し、再び帰校することはなかった。1913年以降、奈良女高師では留学生の入学を認めない時期が続いたが、1922年になって受け入れを再開した。再開後、最初に入学したのは朝鮮総督府中樞院の参議金濬明の娘、金英熙と金武熙の2人であった。そして、その翌年には、李王家御慶事記念会会長の柳原吉兵衛の口利きと世話により、4名の朝鮮人留学生が入学した。これ以後、1924年に1名、1925年に4名、1926年に4名と朝鮮人留学生の入学が続いた。いずれも柳原の斡旋によるものであった。柳原の留学生への支援は、男女を問わず、関西を中心にいくつかの学校に及んでいるが、その関係が最も緊密であったのは奈良女高師である。57名の朝鮮人留学生が記した柳原吉兵衛宛書簡が残されているが、そのうち44名が奈良女高師に在籍（卒業もしくは中退）していた。東京女子高等師範学校（現お茶の水女子大学）と並び、女子学生にとっての最高学府であった奈良女高師で留学生を学ばせたいという柳原の強い思いもあったのだと思われる。



柳原吉兵衛が最初に奈良女子高等師範学校に斡旋した4名の留学生後列の立っている4名が、柳原吉兵衛が斡旋した留学生。右から李禮行、金淑培、金永洙、朴小娣。前列は、右から柳原吉兵衛、柳原せい（柳原夫人）、金武熙。金武熙は奈良女子高等師範学校の最初の朝鮮人留学生。1922年4月に姉とともに2人で入学したが、姉（金英熙）は1924年2月に退学した（1923年、柳原邸）。



奈良女子高等師範学校在学中の朝鮮および中華民国の学生の親睦会。前列は朝鮮人留学生、中列は中華民国留学生、3列目は柳原吉兵衛と教員（1925年6月、奈良ホテル）。



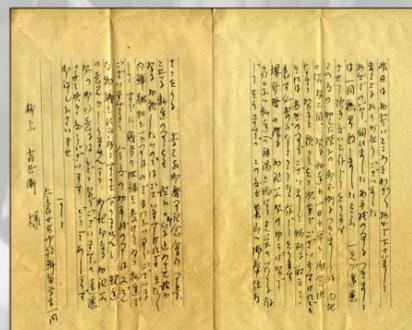
奈良女子高等師範学校の年度別在籍留学生数 *野村鮎子氏（奈良女子大学）作成

姓名	国籍	年齢	出身	備考
李禮行	朝鮮	19	朝鮮	
金淑培	朝鮮	19	朝鮮	
金永洙	朝鮮	19	朝鮮	
朴小娣	朝鮮	19	朝鮮	
金英熙	朝鮮	19	朝鮮	
金武熙	朝鮮	19	朝鮮	
...

「第三臨時教員養成所寄宿舎割一覽表（昭和二年四月調）」 奈良女高師の寄宿舎の部屋割り。留学生の名も見える。

留学生の書簡

桃山学院史料室には、留学生が柳原吉兵衛に送った書簡が残されている。なかでも数が多いのは、朝鮮人女子留学生の書簡である。これらの書簡はすべて複写され、『戦前期朝鮮女子留学生の柳原吉兵衛宛の書簡』（6分冊）として製本されている。書簡が出された期間は1923年から1944年で、留学生数は57名、書簡の総数は1202通に及ぶ。書簡の内容は主に柳原吉兵衛に対するお礼やお見舞いであるが、「本3冊の代金30円とマンダリンの代金25円をすぐに送ってください」や、「実家の父が京城に出す店の資本金を融通してほしい」といった遠慮のないものも見られ、当時の留学生の生活の様子や柳原と留学生との関係性を窺うことができる。



「奈良女子高等師範学校朝鮮人学生一同による柳原吉兵衛宛の書簡」（1926年12月12日）



『戦前期朝鮮女子留学生の柳原吉兵衛宛の書簡』